

高山市子どもにやさしいまちづくり推進委員会 会議録(抄)

日 時	令 6 年 3 月 7 日 (木) 13 時 30 分～15 時 00 分
場 所	市役所 4 階特別会議室
出席者	委員 出席 17 名、欠席 3 名、事務局 10 名
開会	進行：子ども発達支援センター長
1. 挨拶	子育て支援課長
2. 委員長 選出	委員長選出
3. 議題	
子ども政策 係長説明	1. 子どもにやさしいまちづくり計画の進捗状況について (一部略) [意見・要旨]
委員	<p>昨年 12 月 16・17 日に「第 5 回飛騨高山学会」が開催され、高山市における子どもの意識と学習生活実態についての発表がありました。小学校 5 年生、中学校 2 年生の実態調査結果で、地元への愛着は 9 割。教育委員会では郷土教育を教育の柱として取り組んでいますので、その点では大変嬉しい結果だと思いました。</p> <p>一方で、高山市内の職業に対する理解は、必ずしも高い結果ではなかったように思います。</p> <p>高山市内の高等学校 4 校を対象に、この春の卒業生の状況を調べてみましたが、進学者が 78%、就職者が 22%、その他が 2%でした。</p> <p>進学者は基本的には飛騨から離れます。就職者の 22%の中で、地域外に就職する者を含めると 86%の卒業生が飛騨地区から離れていきます。発表の中に、地元企業、企業をよく知っていた人ほど、U ターン希望が強いことがわかっています。</p> <p>児童生徒に夢を与える、あるいは地域の活性化のためにも、職場体験学習のような施策を今まで以上に進めていく必要があると感じましたので、ご意見をいただければありがたいです。</p>
子育て支援 課長	<p>「飛騨高山学会」では、私どもが発注した調査事業の成果報告がありました。子どもの計画の更新期に合わせた大規模調査の一環として実施したもので、この時はダイジェスト版でしたので、今後、フルバージョンのものを取りまとめて、公表させていただきます。</p> <p>子どもが働ける場所が少ない、また進学先がないということで、多くの子どもたちが市外へ出ていってる状態です。ずっとそういう状態が続いていますが、そこがこのまちの大きな課題だということで、近年、若者に対する政策に力を入れている根拠でもあります。</p> <p>まだまだ取り組むべきことは多いと思っておりますので、引き続き、力を入れてまいりたいと思います。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>職場体験学習の実施ということについて、話させていただきます。</p> <p>先日、「キャリア教育を考える会」ということで、中学校ではロータリークラブ等の団体からご協力をいただきながら、子どもたちに学ぶ機会を作らせていただいています。その会の中でも、委員がおっしゃったように、「地元の職業について知らない」ということも課題の一つとして、今後のキャリア教育で工夫していきたいと話題になりました。そういった視点も持ちながら、改善してまいりたいと思います。</p>
<p>子ども政策係長説明</p>	<p>2. 令和5年度の子ども・子育て支援の取組みについて (略)</p>
<p>子育て支援課長説明</p>	<p>3. こども計画（仮称）の策定に向けた取組みについて</p> <p>[意見・要旨]</p>
<p>委員</p>	<p>放課後等デイサービスは、子どもの居場所、子どもの心のケアというところに入るのか教えてください。</p> <p>先ほど、質問し忘れましたが、昨年度、放課後等デイサービスの利用制限ができましたが、その後どうなったかということも合わせてお願いします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>資料では、放課後等デイサービスは、困難な状況にある子ども支援の中の障がい児の支援の中に含まれるものと考えます。</p> <p>もう一点、令和4年度の9月頃から放課後等デイサービスの見直しを行っています。小学生以上のお子さんの療育や支援を行うような事業所で、福祉サービスとして利用できる制度なのですが、誰でも無料で何日でも使えるというような状況だったのでオーバーフローしてしまったということがありました。提供できるサービス量より使える内容となっていましたので、早い者勝ちのような状況が生まれていて、本当に使いたい方が使えないような状態でした。</p> <p>障がいの程度に応じて、学校の在籍クラスが通常学級であれば月5日までとか、特別支援学級であれば10日までなどの基準を設けさせていただくよう見直しました。</p> <p>見直し後には大きな反響があり、今もなお不満を持ってみえる方はおいでだと思いますが、令和5年度からいろんな事情で多くの利用日数が必要な方には、申出をいただいで、審査会による審査を経て基準以上にお使いいただけるような仕組みを整えています。</p> <p>今年度、申請により基準以上の利用を認めたという方も10件ほどあり、徐々にあるべき姿へ向かっていると思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>「第9次総合計画」にあわせて、「こども計画」に刷新ということですが、基本的には今の「子どもにやさしいまちづくり計画」を刷新して「こども計画」にされるということで良いですか。</p>

子育て支援課長	「子どもにやさしいまちづくり計画」は来年度までで終了としまして、名称は未定ですが、新しい「こども計画」に切り替えることを考えています。
委員	それを踏まえてお伺いしますが、計画の中身に関して、新たな枠組みの「こども家庭庁」があって「こども計画」ということなのですが、今まであった「子どもにやさしいまちづくり計画」の中で、該当しなくなってくる部分などはあるのでしょうか。
子育て支援課長	<p>具体的な計画の中身は、来年度固めていくのですが、今のご意見で頭に浮かんだこととお返しします。</p> <p>議題1「計画の進捗状況」の資料で見ていただいたとおり、現計画では子ども・子育て支援に関する施策を全て網羅的に挙げているような内容となっています。その良さもありますが、市民からしますと量が多くて理解しにくいといった側面もあるのではと思っています。</p> <p>新しい「こども計画」では、普通に続けていくような施策は省略し、できるだけポイントを絞って戦略的に、分かりやすくするといった見直しをする必要があると思っています。</p> <p>また、年齢で区切らないひらがなの「こども」になったということで、「こども家庭庁」、「こども計画」という総括的な枠組みになっていますので、もう少し幅広い内容に渡っていくんだらうということを思っています。資料には、結婚、若者、労働や医療分野なども、こども政策に含まれるという内容がありましたが、例えば住宅分野など、追加していく部分もあると思っています。</p>
委員	<p>先ほどの挨拶の中で、ここ2~3年が高山市の将来を大きく左右すると言われましたが、たいへん重い言葉だと思います。私もその言葉を真摯に受け止めて、活動していきたいと思っています。</p> <p>西暦2,000年ころ、障害者福祉の方で、障害の害という字をひらがなに変えようという動きがあった際、子ども会も「供(ども)」という字をひらがなに変えました。伺いたいのは、この会の名称「子どもにやさしいまちづくり推進委員会」も年度が変わり、新しくなる際には、「子ども」の「子」がひらがなになるのかということです。</p> <p>「子ども会」も全て子をひらがなに変えれば良いのか、将来を変える大きい問題だと思いますので、ご意見をお願いします。</p>
子育て支援課長	<p>ご紹介いただいたとおり、今はひらがなの「こども」が、徐々に広がってきているような状況です。現在、子育て支援課の子は漢字ですが、来年度の組織については、漢字の子は姿を消し、ひらがなの「こども」になっています。</p> <p>新たに作る計画についても、ひらがなのこどもを使うと思います。</p> <p>それは我々の組織とか、計画を作る側の者の「思い」ですので、それぞれ子どもの漢字を使っていच्छる団体において、ご判断いただき、どのタイミングで切り</p>

<p>委員</p>	<p>替えていくのかといったことも検討していただくことになろうかと思えます。</p> <p>「こどもまんなか社会」を進めるという国の動きは、高山市でも重要な課題と思っていますので、今後はひらがなの「こども」に徐々に移していきたいと思っていますところでは。</p> <p>私ごとですが、娘が2人おり、子育ての真っ最中です。</p> <p>今、困っていることは、コロナの後、今年は子どもたちの間ですごく感染症が流行ってすぐ熱を出す、体調悪くなると、仕事を休んで医者連れて行くことになりま</p> <p>す。</p> <p>開業医の小児科の医者が年を召され、開院日が少なくなっている医院があります。医療費が無料なのは非常にありがたいのですが、子どもの医療を担ってくださる身近な開業医で、今後も継続して医療を受けられるかが、すごく心配だと皆が言っています。</p> <p>市の政策でどうするという問題ではないかもしれませんが、そういった懸念をリアルに持っていることについて、皆さんの耳に入れたいと思ひましてお話しさせてもらいました。</p>
<p>委員（福祉部長）</p>	<p>直接の所管ではないですが、医療の確保は、市民にとって非常に大事であると認識しています。先ほどキャリア教育という話もありましたが、早い段階から医師や看護師など、医療従事者を確保するための取組みに力を入れています。</p> <p>医療に進む学生を増やすこととして、学費の負担が重いので、奨学金等の支援により、将来、高山に帰ってきてもらえるような取組みに力を入れています。もう数年すると、支援を受けた学生たちがドクターになり、地域に帰ってくると思っています。</p> <p>小児科医に限っている訳ではないですが、医療の確保には力を入れています。報道などで見られた方もおみえになるのではと思いますが、昨年、日赤病院、久美愛厚生病院と市で3者協定を結び、連携をしながら医療の確保、役割分担など、医師会とも協力しながら、今ある医療を十分に活用していけるような地域づくりを進める取組みも行っていますので、情報提供させていただきます。</p>
<p>委員</p>	<p>各地域にある「つどいの広場」で子どもたちと接し、関わらせていただいています、せっかく「こども計画」が作られますので、そういうところへ子育て支援課の方に来ていただいて、お母さんたちの生の声を聞いていただけたらと思ひます。</p> <p>本当にお母さんたちが、今何を求めているのか、実際に知っていただけたらと思ひます。</p> <p>先日は、「子どもを12月15日に帝王切開で出産する予定なのに、保育園が全部入れませんと断られたんですけど、どうしましょう」と相談されました。保健師と相談し、色々とお話をかけてもらったんですが、受け入れてもらえるところがなく、最終的には支所長にも探していただいたり、声をかけていただいて、何とか見つかりました。</p>

	<p>やはり、直接お母さんたちの声を聞いてもらうことは、とても大事と思いますので、「つどいの広場」がたくさんありますので、各地域のそれぞれの悩みを聞いていただけると良いと思いました。</p>
子育て支援課長	<p>ぜひ広場へ直接うかがって聞かせていただきたいと思いますし、支援者の皆さんがお聞きになったことを代弁者として、私どもにお伝えいただけたら、貴重なご意見として同様に扱わせていただきます。</p> <p>連携しながら、一緒に良いまちを作っていきたいと思います。</p>
閉会	<p>以上で、子どもにやさしいまちづくり推進委員会を閉会します。</p>